

先月号から、患者さん一人ひとりに最適な治療を施す「テーラーメイド医療」と、その普及に欠かせない「遺伝子検査」の一般的な実情についてお話をした。

今月号では、私のクリニックでの遺伝子検査を活用した「テーラーメイド医療」の詳細についてお話をしたい。

一人の歯科医として、遺伝子検査、ひいては「テーラーメイド医療」を、どのように実現していくかを考えた時、こういうケースにも、いやあのケースにも使える」と、実在する患者さんの顔と共に、その治療の幅の豊かさが脳裏に広がった感覚は、新鮮なものだった。

現在、当クリニックでは、歯や口腔の治療の際、遺伝子検査をされた方が良い患者さん、さらには、遺伝子検査を希望される患者さんには、その趣旨を十分ご説明した上で、検



査を実施している。

治療上、遺伝子検査を受けられたほうが良い患者さんというのば、例えば、インプラント治療を受ける患者さんや難治性歯肉炎の患者さんなど多岐に渡る。

インプラント治療はひとが生きていくうえで最も大切な「咬合」を飛躍的に回復させ、人生のQOLを大きくあげる治療である。が、骨粗鬆症などの骨代謝性疾患や糖尿病などのエネルギー代謝性疾患の有無が、インプラント治療における長期成功

「遺伝子検査」は自分の「健康」と向きあう好機

のカギを握る。これらの疾患は後天的な原因が多くを占めるが、体質遺伝子検査により、将来自分が遺伝的にかかりやすいリスクが分かれば、それなりに生活習慣を見直し、予防していくことができる。

近年、人工骨などを使用して骨造成を行ってインプラント治療を受ける患者さんが増えているが、そういう患者さんに対して、これらの疾患に罹りやすいリスクが分かれば術式の決定やメンテナンスの予定も「テーラーメイド」で決めることができる。

歯周病も後天的な原因が多くを占めるが、なかなか治療の効果が表れない方は一度体質検査を受けてみるのもよいだろう。

当然、検査をお奨めする理由は、患者さんにもお伝えするが、興味深いのは、歯や口腔内の治療で体験した遺伝子検査から、大まかなご自身の体質を把握され、多くの検査を受けられた患者さんが「健康」というものへの意識を相当程度、変えられることだ。

この事実は、私も予想はし

ていなかったが、従来の臨床検査とはケタ違いに得られるご自身の健康やカラダに関する情報を目の前に示されると、いやが上にも「自分の健康」と向き合わざるを得なくなるということなのかもしれない。健康や体調の変化にそれほど気を使わなかった患者さんも、それなりに生活や体調管理の話をされるようになり、健康への関心が高かった患者さんとは、人間ドックの検査項目を増やそうか、など、明らかに自分の健康への「向き合い方」に良い変化が出ている。

治療の際だけでなく、遺伝子検査の後も、予想外の良い「効用」が生じることもある。

次号では、今回ご紹介した、治療上遺伝子検査を受けられた方のほかに、ご自身で望まれて遺伝子検査を受けられた方のお話などを紹介できればと考えている。

顎関節症 ドライマウス 舌痛症

長栄歯科クリニック
亀井 英志
Kamei Hideshi

ストレスは
見える！

すべては「噛みしめ」が原因だった

気がつくとも歯を食いしばっている、…。心当たりの方は、当コラムの亀井医師の著書『すべては「噛みしめ」が原因だった』をお読みいただきたい。未病、の原因をまとめた良書です。

亀井英志(かめいひでし)

1951年群馬県前橋市生まれ。76年東京歯科大学卒業。都立病院歯科口腔外科医を経て、84年より長栄歯科クリニック院長。臨床ゲノム医療学会理事。

